

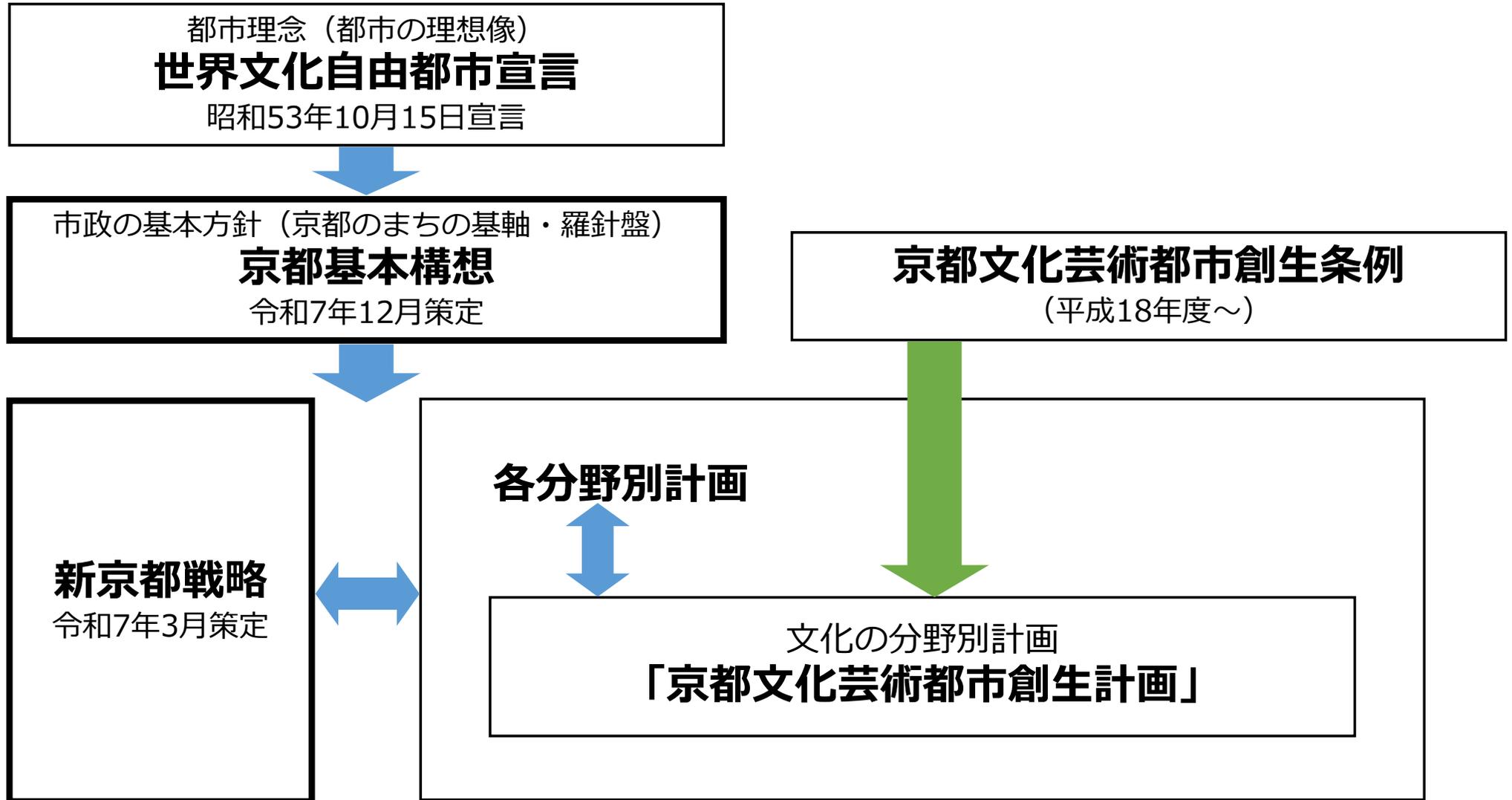
# 本市の文化政策の方向性と取組について

## 目次

1	「京都基本構想」と「新京都戦略」について	P2
2	第2期京都文化芸術都市創生計画に掲げる132項目の進捗状況	P5
3	主な文化関連事業について	P6

# 「京都基本構想」と「新京都戦略」について

## 本市の政策体系



# 「京都基本構想」と「新京都戦略」について

## 京都基本構想

○京都市基本構想と京都市基本計画を統合し、基本構想をベースとした「京都基本構想」として策定。

○構想期間は、前基本構想と同様、25年間(2026～2050年)とする。

### 【概要】

時勢が複雑化の一途を辿る中で、世界文化自由都市宣言が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方を展望するものとして策定。

京都のまちの基軸となる3つの価値を未来に受け継いでいくため、それらに紐づける形で9つのめざすまちの将来像を描く。

### 京都のまちの基軸となる3つの価値

### めざすまちの将来像

歴史と文化を介して人間性を回復できるまち

- (1)本物(ほんまもん)を追究・創造し続ける
- (2)世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける
- (3)「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる
- (4)平穏と静寂のもとで自己と世界に深く向き合える

自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち

- (1)謙虚に自然と関わり続ける
- (2)災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る

自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち

- (1)多層的でゆるやかなつながりが続く
- (2)支え合いの中で日々の生活を営める
- (3)ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える

# 「京都基本構想」と「新京都戦略」について

## 新京都戦略

○市長公約を盛り込み、京都市のSDGs未来都市計画、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として位置付け、令和7年3月に策定。計画期間は4年間(令和6年度～令和9年度)とする。なお、京都基本構想を踏まえ改定予定。



すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向けて、先導的な取組を『リーディング・プロジェクト』に位置付けて推進する。

ひらく	きわめる	つなぐ
<ul style="list-style-type: none"> <li>①世界中からクリエイティブ人材がつどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト</li> <li>②公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト</li> <li>③市民生活と「観光」の両立プロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④「世界に唯一」を目指し、知や技術を創発する企業立地促進プロジェクト</li> <li>⑤世界にインパクトを与えるスタートアップ創出・成長プロジェクト</li> <li>⑥「千年の都から次の千年へ」文化継承・価値創造プロジェクト</li> <li>⑦まち中に「学芸」があふれるプロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧市役所・区役所の「つなぐ」機能強化プロジェクト</li> <li>⑨地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト</li> <li>⑩京都固有の町並みを次世代に「つなぐ」プロジェクト</li> <li>⑪「山紫水明の都」ならではの生物多様性・未来継承プロジェクト</li> </ul>

# 第2期京都文化芸術都市創生計画に掲げる132項目の進捗状況

(令和6年度末時点)

実施済又は実施中

131項目 (99%)

一部を除き、  
実施済又は実施中

1項目 (1%)  
・104：京都における新たな世界遺産の登録

企画・構想  
設計段階

なし

着手前

なし

# 主な文化関連事業について

## ① 京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり (\*\*\* in Residence Kyoto)

海外には、京都にインスパイアされ、様々なイノベーションの創発を希望するクリエイティブ人材が多数存在する一方で、京都市では、受け入れ、知の交流が持続的に行われる仕組み、受け皿となる施設や人材等が不足しており、機会を喪失している。

このような課題に対し、これまで京都芸術センター等が中心となって取り組んできたアーティスト・イン・レジデンスを拡大し、狭義の「アーティスト」にとどまらないクリエイティブ人材を京都に呼び込み、地域や若者をつなげることによって、知的交流を促し、優れた才能の集積を目指すことを目的とする。

**〈令和7年度の取組〉** 京都のレジデンス環境の海外発信や、受入施設とクリエイター、若者・地域との交流に係るコーディネート機能の充実など、新たなモデル事業に取り組みつつ、滞在先として京都が選ばれ続けるための全体の仕組みを検討し、令和8年度の本格実施につなげる

### レジデンス施設のスタートアップ支援

- ①レジデンスモデル事業6件を実施
- ②R6実施施設の自律化に向けたフォローアップ
- ③モデル事業の成果等の共有
- ④クリエイターの受入れをサポートする専門家相談会の実施

### 交流会（ミートアップ）の実施

レジデンス施設のオーナーやコーディネーターをはじめ、本事業に関心のある方々との交流会を開催し、新規オーナー候補の発掘や、施設間の連携を深める機会とする。

### 海外クリエイターと若手・地域との交流促進

- ①コーディネート機能の充実
- ②各レジデンス施設・団体等の取組の情報発信

### 国内外のネットワークづくり

- ①京都で活躍するクリエイターの海外派遣
- ②国内の関係機関との連携

# 主な文化関連事業について

## ② 京都芸術センターの運営基盤強化

京都市では、文化芸術を総合的に振興するため、多様な芸術活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、芸術を通じた交流を図るため「京都芸術センター（以下、芸術センターという）」を運営している。

平成12年度の開設以降、アートコーディネーターやプログラムディレクター等の専門人材が中心となり、新進芸術家の制作活動をサポートし、国内外で活躍する芸術家を生み出すなど、京都で若い芸術家が活動する拠点として成果を上げている。

令和7年度に開設25周年を迎えた芸術センターについて、新たな価値を生み出す創造拠点になることを目指し、運営基盤の強化を図るとともに、次期指定管理期間に向け、運営のあり方や手法について調査・実証を行う。

### 芸術センターの基本機能

本市、芸術家及びその他芸術に関する活動を行う者が連携し、本市における文化芸術を総合的に振興するため、以下3つを軸に事業を実施している。

#### ①【活動センター機能】

ジャンルを問わない若い世代の芸術家の制作活動の支援

#### ②【情報センター機能】

さまざまなメディアを用いた、芸術文化に関する情報の収集と発信

#### ③【交流センター機能】

芸術家と市民あるいは芸術家相互の交流の促進

### 令和7年度充実事業

#### ○ 運営基盤の強化

芸術センター事業や施設自体の認知度向上、集客力を高め、ステークホルダー（市民・企業・文化芸術関係者）等との関係性を充実・強化するため、新たに広報マネージャーを配置する等、運営基盤の強化を図る。

⇒職員の処遇改善、広報マネージャーの配置を実現

#### ○ 運営のあり方検討及び実証

芸術センターが理想の姿を目指すにあたり、外部有識者の知見や他都市のアートセンター等の運営方法を調査し、効果的な運営方法を把握・検討するための調査・実証を行う。

⇒芸術センターに係る分析調査及びブランディング検討を実施

# 主な文化関連事業について

## ③ 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

感性豊かな子どもの頃から質の高い文化芸術に直接触れる機会を創出することにより、京都の文化芸術を支え、継承と創造をしていく次世代の「担い手」「支え手」となる若者を育成することを目指し、「文化芸術授業(ようこそアーティスト)」と「伝統公演授業(ようこそ和の空間)」を一体的な取組として実施している。

令和7年度においては、本事業の参加者アンケートにおいて事業の有効性が確認されていること、受入を希望する学校等が多いことから、さらに多くの学校等において、文化芸術に触れる機会の拡充を図る。

また、京都ならではの伝統文化等に触れることができる低年齢向け伝統文化体験事業をモデル的に実施する。

新規実施

### 低年齢向け伝統文化体験事業 (はじめまして和の体験)

より感性豊かで「体験」を得ることが重要である幼少期から、京都ならではの伝統文化等に触れてもらい、次世代の「担い手」「支え手」の育成につなげるため、低年齢を対象に、集合型の伝統文化体験事業をモデル的に実施  
【R7実施件数】4件

拡充して実施

### 文化芸術授業 (ようこそアーティスト)

伝統芸能や茶道、華道、演劇、ダンスなど幅広い分野にわたり京都で活動する芸術家を市内の小・中・総合支援学校、幼稚園、保育所(園)、児童館に派遣し、ワークショップ等を実施  
【R6実施校数】66か所  
【R7実施校数】110か所(予定)

継続実施

### 伝統公演授業 (ようこそ和の空間)

中学生を対象に、能楽堂等本格的な文化芸術の場で「能」「狂言」「邦楽と日本舞踊」の伝統芸能の魅力に触れる公演鑑賞事業を実施

### KYOTO ARTBOX FOR KIDS

親子や子どもたちを対象としたイベント情報やコラムを掲載する子ども向けアート情報の総合サイト  
『KYOTO ARTBOX FOR KIDS』  
を令和5年11月から運営。

# 子どもを対象とした文化芸術に関する主な施策

文化財分野	生活文化分野	伝統文化分野	伝統産業分野	舞台芸術分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>●『ようこそアーティスト』能楽、日本舞踊、邦楽等の伝統芸能をはじめ、茶道、華道、書道や演劇、ダンスなどの一流のアーティストを学校等に講師として派遣し、実技指導やワークショップを行う。(幼、保、児、小、中)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●『葵祭見学』(幼)</li> <li>●『時代祭見学』(小)</li> <li>●『歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定』(小)</li> <li>●『中高生による「京都・観光文化検定試験3級」チャレンジ事業』(中、高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『伝統文化体験事業(茶道・華道)の充実』小学校での茶道、中学校での華道体験(小、中)</li> <li>●『「茶道」を中心としたおもてなし事業』(高)</li> <li>●『学校給食における「和食」の充実に向けた取組の推進と情報発信』和食の献立を充実(小、中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『ようこそ和の空間』能、狂言、邦舞、邦楽の伝統芸能公演鑑賞(中)</li> <li>●『ようこそ伝統芸能体験教室』(小、中)</li> <li>●『はじめまして和の体験』能、日本舞踊の体験事業(保、幼)</li> <li>●『市立高校生の伝統文化体験事業「能楽鑑賞会、座禅体験会、歌舞伎鑑賞教室」』(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『京の「匠」ふれあい事業』西陣織、京鹿の子紋、京友禅・京小紋、京くみひもなどの伝統産業の職人実演・製作体験(小、中)</li> <li>●『「伝統産業の日」関連事業』絵本を題材としたワークショップや、中高生及び留学生を対象としたきもの着付け体験等(幼、小、中、高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『小学生演劇鑑賞教室』RTKで劇団四季の演劇鑑賞(小)</li> <li>●『小学生のための音楽鑑賞教室』京都CHで京響の演奏鑑賞(小)</li> <li>●『子どものためのオペラ』(小)</li> <li>●『学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業(文化庁事業)』実演芸術の巡回公演、学校での文化芸術鑑賞・体験(小、中、高)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●『社会に開かれた教育活動推進事業』地域や社会と連携した体験学習や探究活動(小、中)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●『夏のこども体験教室』陶芸教室・平安貴族体験など(小)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●『京の技専門家派遣事業』和装の着装指導や、邦舞、和楽器、伝統産業の専門家の講師派遣と体験教室(小、中)</li> </ul>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●『京料理親子体験教室事業』(文化庁事業)京料理の親子向け体験(小、中)</li> </ul>				

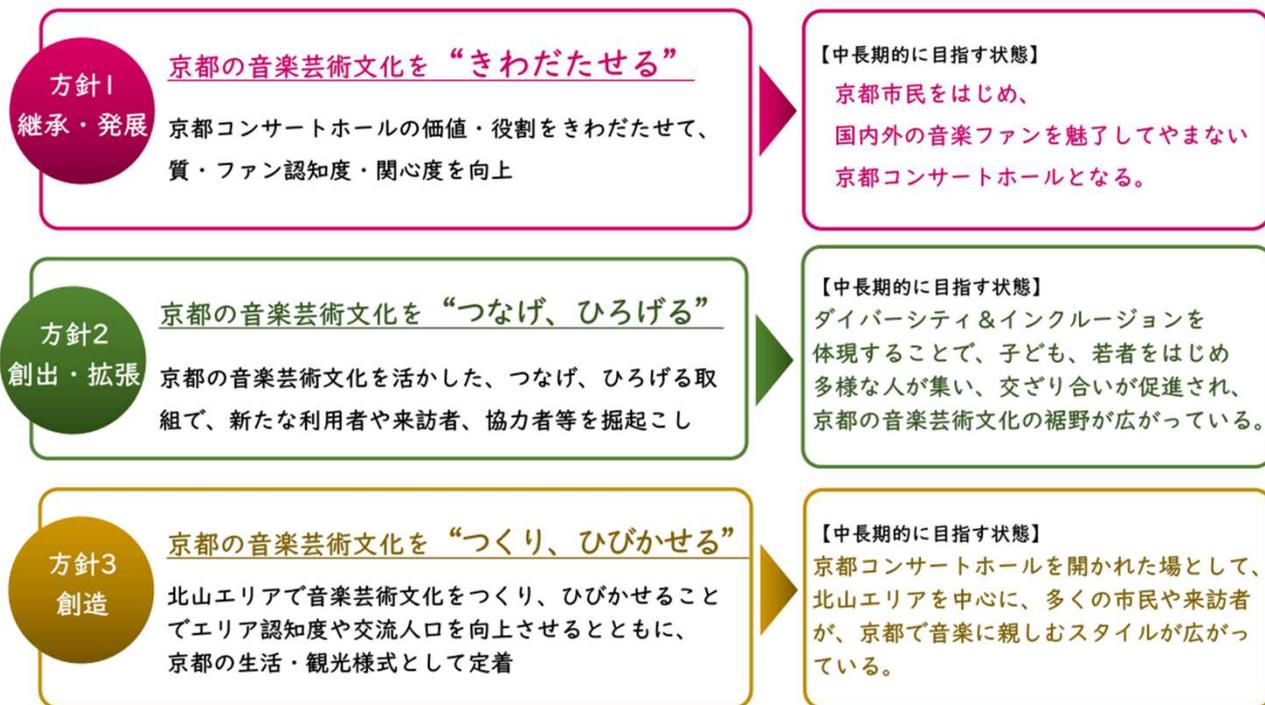
# 主な文化関連事業について

## ④ 京都コンサートホール魅力向上事業

京都コンサートホールは、平成7年に建設され、これまでに、京都市交響楽団をはじめとした国内外のオーケストラ等の公演を通じて市民の皆様が高水準の音楽を提供してきたほか、次代を担う若き芸術家の発表や、世代を超えた交流の場としての役割を果たしてきた。

一方、開館から約30年が経過し、施設・設備の老朽化等が進んでおり、機能維持や安全性向上、長寿命化に向けた対応が求められている。大規模改修を機に、京都コンサートホールの魅力を向上し、将来にわたり京都の音楽芸術文化の価値を高め続けるため、令和6年10月に策定した京都コンサートホール魅力向上方針に基づく取組を進めている。

### 京都コンサートホール魅力向上方針（令和6年10月策定）



### 令和7年度の取組

- ① 大規模改修に係る基本設計の実施
- ② 京都市交響楽団の演奏力向上による京都コンサートホールの魅力向上  
…現在、京都市交響楽団のリハーサルは主に練習場で実施しているところ、本拠地である京都コンサートホールでのリハーサル実施を増加することで演奏力を更に高め、「世界に誇れるオーケストラ」として前進することにより、京都コンサートホールの魅力向上を図る。

# 主な文化関連事業について

## ⑤ 文化財修理サイクルの確立に向けた修理助成制度の再構築

文化財保存継承を取り巻く状況に対応するため、市指定登録文化財の修理改修等に対する助成事業を整理、再編し、適切な支援を行うことにより、文化財を将来にわたって確実に保存継承していくための修理サイクルの構築を目指すとともに、文化財の保存と活用の好循環を創出する。

### 市指定文化財等修理改修事業等助成

市指定登録文化財の修理改修や耐震改修事業に対する補助を行う。  
令和7年11月末時点補助実績：62,727,000円（80件）

### 市指定文化財等の耐震化に係る設計・調査等助成

文化財建造物の耐震診断及び耐震設計事業に対する補助を行う。  
令和7年11月末時点補助実績：10,000,000円（1件）

### 市指定文化財等大規模修理事業等助成

150年周期で必要となる文化財建造物の根本修理をはじめとした大規模修理事業に対する補助を行う。補助を行う文化財に関しては、修理後の活用方針を審査するなど、活用の観点も踏まえた選定を行うことで、文化財の保存と活用の好循環を生み出す。  
令和7年11月末時点補助実績：56,659,000円（5件）

### 所有者負担軽減に向けた検討

文化財修理改修事業等に対する更なる寄付金の獲得など、所有者の負担軽減に向けた検討を行う。

# 主な文化関連事業について

## ⑥ 京都ならではの歴史博物館の機能の検討（6年度事業の報告）

本市の博物館機能を担っている考古資料館及び歴史資料館は、博物館類似施設（※）にとどまっており、他の博物館等が所有する国宝・重要文化財を公開することができないほか、施設の老朽化や狭あい化、耐震性能等の問題が喫緊の課題となっている。

さらに、本市の埋蔵文化財の収蔵容量は96%を超過しており、文化財を適切に保管管理するための収蔵機能の整備も急務となっている。

博物館機能の在り方、考古資料館をはじめとする市有施設の老朽化、埋蔵文化財の収蔵容量の解消について、それぞれの課題抽出を行うとともに、他都市における博物館機能の事例を収集し、京都ならではの歴史博物館機能の構築を目指す。

※ 博物館と同種の事業を行う施設（登録又は指定を受けていないもの）

### 令和6年度の取組

京都に求められる博物館機能について、周辺課題と合わせた整理、検討、他都市の事例調査を行うなど、京都ならではの歴史博物館機能の在り方を検討するうえでの基礎調査を行った。



- 博物館機能にとどまらず、本市の文化財保護行政の全体の現状、課題等が確認された。
- これらの課題解決には、「文化財を学ぶ、繋げる、守る」をコンセプトに、京都を知る際の「玄関口」としての展示・教育機能、京都文化遺産のハブとなる機能、充実した収蔵機能の3つの機能を整備することが提案された。
- 博物館機能の整備の検討に当たっては、各機能をどのように配置するか、機能集約または機能分散するかといった視点で検討が重要であるとの提案を受けた。